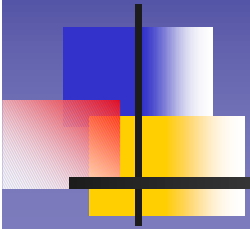


資料 6

札幌駅交流拠点 再整備構想案 概略イメージ





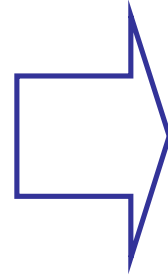
構想案の概略イメージ

- ・ 札幌駅交流拠点のコンセプト
- ・ 3つのステージから見た札幌駅交流拠点の基本的考え方
 - ・ 【広域スケール】世界の中の北海道、日本の中の札幌の位置づけ
 - ・ 【都心スケール】札幌都心における札幌駅交流拠点の役割
 - ・ 【駅直近スケール】札幌駅交流拠点の直近街区の役割
- ・ 札幌交流拠点再整備の基本方針
 - ・ 交通結節点機能の形成方針
 - ・ 機能・施設の導入及び配置方針
 - ・ 景観まちづくり方針
 - ・ パブリックライフの展開方針
 - ・ 土地利用の基本方針
- ・ 実現化に向けた基本的考え方
- ・ 今後の取り組み

札幌駅交流拠点のコンセプト

【都心まちづくり計画】

- ・ これからの時代の生活・文化をつくる
- ・ “世界都市さっぽろ”をつくる



【都心まちづくり戦略】

- ・ 世界に向け魅力を発信し、市民生活を豊かにする都心の創出

北海道の100年を牽引する
道都さっぽろの玄関口の創造

- 実験都市札幌の実践 -

3つのステージから見た

札幌駅交流拠点の基本的考え方

- 1 【広域スケール】

世界の中の北海道、日本の中の札幌の位置づけ

- ▶ 世界や国内における交流活動を通じた北海道及び札幌市の活性化
- ▶ 国際観光客や国内観光・ビジネスの玄関口として、全ての移動モードのストレスフリーな「交通結節点」の形成（50年に一度の抜本的対策を展望）
- ▶ 北海道の良さ、奥行きをの深さを理解、共感してもらう北海道の入り口・玄関口としての「PRインフォメーション拠点」の形成



今後10年20年
先、Sapporoは
世界のどこを
見据えるのか



3つのステージから見た

札幌駅交流拠点の基本的考え方

- 2 【都心スケール】

札幌都心における札幌駅交流拠点の役割

- 「創造都市さっぽろ」、北海道の「産業創造、産業育成機能」の強化を図る拠点
- 様々なシーンや形態で楽しめる主要な「歩行者動線の基軸回廊」の形成
- 北5条通を駅前通・創成川通・大通に次ぐ重要な歩行者動線として整備
- 「都心の道路機能・道路空間再配分計画」の検討（歩行者ネットワーク、自転車ネットワーク、広域交通ネットワーク、地下ネットワーク、トランジットモール、また、駐車場利用計画等について総合的に検討）



北海道・札幌の玄関口を形成するにあたり、2空港3港湾との関係をどう考えるか

3つのステージから見た

札幌駅交流拠点の基本的考え方

- 3 【駅直近スケール】

札幌駅交流拠点の直近街区の役割

- 「札幌に来たんだ」と実感できる魅力的な都市の風景を形成
- ⇒ パブリックライフの起点となる緑豊かな駅前広場の再構築
- ⇒ 美しい街並みなどの優れた都市環境の形成
- ⇒ 直近街区も含めたエリアマネジメントの展開による景観形成のコンセンサスとルールづくりが必要



札幌駅交流拠点再整備の基本方針

- 1 交通結節点機能の形成方針（例）

地理的優位性

- 札幌市は、東アジアと北米を結ぶ線上に位置
- 日本海側と太平洋側に3港湾、2空港が立地・隣接
- ⇒ 地理的優位性を生かし、東アジア各地域の成長と活力を取り込んでいくための交流促進が重要

都心交通計画

(H16策定)

- 計画理念「人や環境を重視し、都心の活性化を目指す」
- ⇒ 公共交通を軸とした交通システムの充実
- ⇒ 適正な自動車等の利用による交通円滑化
- ⇒ 道路空間再配分による都心再生の具体化

都心まちづくり戦略

(H22予定)

- 目指すべき都心の将来像
- ⇒ 人を中心とした魅力あるまち
- ⇒ 新たな文化と活力を想像するまち
- ⇒ みどり豊かな環境にやさしいまち
- 当時の都心交通計画の計画理念と整合



札幌駅交流拠点再整備の基本方針

交通結節点機能の形成方針

【基本的考え方】：人と環境を重視した交通機能の充実により、都心の活性化を目指す。

- 市民などの通勤・通学・買い物といった日常生活において、移動の抵抗感を軽減し、速達性の高い交通サービスの提供
- 地理に不案内な観光客、来街者にとってアクセスおよび回遊しやすいネットワークの構築、分かりやすい動線・サイン・情報の提供
- 高齢者などに配慮したシームレスな交通サービスの提供
- 冬にも安心・安全に利用できる交通施設の提供



札幌駅交流拠点再整備の基本方針

【具体的な取り組みイメージ】

- < 移動の連続性確保 > : 各種交通機能間のスムーズな連携・連結を果たす上空・地上・地下の歩行者動線を確保する。
- < 交通機能の有機的配置 > : 駅利用者ニーズ・特性に応じた機能配置とし、移動サービスの公平性を確保する。
- < 交通機能の集約 > : 将来像として、JR、地下鉄、路面電車、バス、タクシー、レンタカー、自転車等各種「交通手段」の集約を展望する。
- < 交通マネジメント > : 駐停車、入庫待ち等による駅周辺の交通問題の解消に資する駅周辺の駐車場のエリアマネジメントを実施する。
- < その他 > : 広域交通に対応する高速ネットワークへのアクセス強化、交通施設のバリアフリー、ユニバーサルデザイン化、外国人にも対応したサイン計画、降雪、寒冷時における代替歩行者動線の確保 等

札幌駅交流拠点再整備の基本方針

- 2 機能導入方針（例）

現状

- これまでは大通以北に業務機能、大通以南に商業機能という分担構造であったが、JRタワー等のオープン以降、札幌駅交流拠点における商業・業務・飲食・娯楽機能の集積が進んでいる

開発動向

- 創成川以東地区における人口の増加、札幌駅から北・東方面での開発動向
- 創世I.I.I.区での文化拠点の形成、駅前通における地下歩行空間の整備など
- ⇒ 都心の機能が大きく更新されつつある

位置づけ

- 都心まちづくり戦略においては、「これまでになかった新たな機能の導入や、交通結節点機能の強化による道都札幌の玄関口にふさわしい拠点の形成」と位置づけられている